



令和元年度 水稻生育診断情報 No.5

(令和元年8月21日)

(情報作成) 滋賀県農業技術振興センター

近江八幡市安土町大中 516 (TEL:0748-46-4391)

(今年度最終情報です)

現在の生育状況

- ◎8月に入って高温多照の日が続き、「みずかがみ」「コシヒカリ」とも登熟は順調に進み、成熟期は平年並になる見込み。
- ◎県内ほ場の5月上旬移植「みずかがみ」では、成熟期を迎えている。
- ◎台風10号等による倒伏が見られるほ場が散見される。

管理のポイント

- ◎葉色に惑わされず、穂(籾)色をしっかりと確認し、籾黄化率85~90%の時期に収穫する！(刈り遅れによる品質低下に注意！！)
- ◎根や葉の活力維持のため、収穫5日前まで落水しない！
- ◎中生・晩生品種では今後も十分な水が必要なので、こまめな水管理を行う！
- ◎倒伏ほ場では、できるだけほ場が乾くよう管理し、穂発芽を抑える。

1 気象の経過と予報

(1) 気象の経過 (彦根気象台観測、平年は過去10年間の平均)

要素		最高気温	最低気温	日照時間	降水量
7月	下旬	平年並	平年並	平年並	かなり多い
8月	上旬	かなり高い	高い	かなり多い	かなり少ない
	中旬	高い	高い	平年並	かなり多い

(2) 近畿地方1か月予報【大阪管区気象台8月15日発表】

- 平年と同様に晴れの日が多い。
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率60%。
- 週別の気温は、1週目は高い確率80%。2週目は高い確率50%。3~4週目は平年並または高い確率ともに40%。

2 生育状況

【農業技術振興センター 水稻作況調査による。表1、表2および後掲グラフ参照。】

- 出穂期は、「みずかがみ」が7月23日(平年より1日遅い)、「コシヒカリ」が7月27日(平年並)となった。
- 成熟期は、「みずかがみ」「コシヒカリ」とも平年並になる見込み。
- 8月15日の台風10号による風雨によって、「みずかがみ」「コシヒカリ」の一部で倒伏が発生した。

表1 令和元年(2019年) 水稲作況調査 生育調査結果

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

基準日 月/日	品種名	草丈(cm)				茎数(本/m ²)				葉色(SPAD値)				主稈葉数(枚)			
		本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	較差	前年
6/20	みずかがみ	45.7	44.3	103	36.9	487	555	88	410	39.3	41.7	94	39.3	9.5	9.7	-0.2	9.5
	コシヒカリ	46.5	44.2	105	38.1	568	568	100	433	42.3	41.9	101	39.9	9.5	9.4	0.1	9.3
7/1	みずかがみ	63.0	64.1	98	56.6	497	610	81	549	40.4	41.4	97	41.3	10.8	10.9	-0.1	11.0
	コシヒカリ	65.1	65.1	100	59.1	633	619	102	627	41.0	41.6	99	43.1	11.2	10.5	0.7	10.8
7/10	みずかがみ	75.8	79.4	95	78.8	450	546	82	519	40.6	40.1	101	41.5	12.2	12.3	-0.1	12.5
	コシヒカリ	79.2	80.3	99	77.6	538	578	93	613	37.8	37.4	101	41.2	11.9	11.6	0.3	12.0
7/20	みずかがみ	92.0	94.3	98	96.6	423	493	86	488	38.5	37.6	102	38.4	12.9	13.2	-0.3	13.8
	コシヒカリ	89.9	93.9	96	94.8	453	513	88	552	39.1	37.5	104	40.0	13.2	12.9	0.3	13.5
7/30	みずかがみ	—	—	—	—	—	—	—	—	36.7	36.4	101	36.8	12.9	13.3	-0.4	13.8
	コシヒカリ	—	—	—	—	—	—	—	—	38.9	37.7	103	39.3	13.3	13.1	0.2	13.5

※移植日は5月10日(播種日:4月19日)。栽植密度は18.5株/m²、植付本数3本/株。

※平年は、H25~30年(6年間)の平均値。

表2 水稲作況調査 生育ステージ

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

「みずかがみ」

生育ステージ	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	6月29日	6月29日	同日	7月1日
出穂期	7月23日	7月22日	1日遅い	7月23日
成熟期	未	8月24日	—	8月25日

「コシヒカリ」

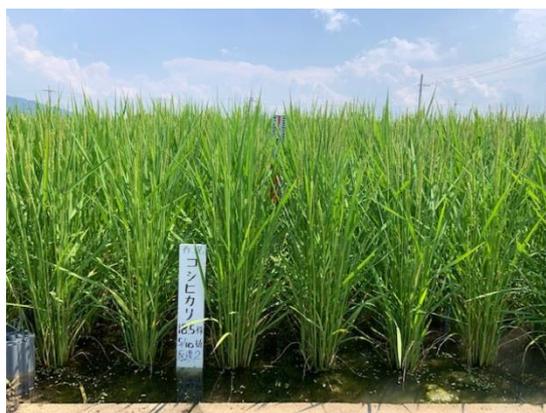
生育ステージ	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	7月1日	7月3日	2日早い	7月3日
出穂期	7月27日	7月27日	同日	7月26日
成熟期	未	8月30日	—	9月1日

※移植日は5月10日(播種日:4月19日)。

※平年は、H25~30年(6年間)の平均値。



7月30日時点の「みずかがみ」



7月30日時点の「コシヒカリ」

3 今後の管理

(1) 適正な水管理

- 登熟期に水が不足すると稲が十分に光合成できず、白未熟粒や胴割粒の発生、籾の充実不足が助長されるため、出穂前後各3週間は常時湛水管理を行う（図1）。
- 落水時期の目安は収穫の5日前であるが、収穫作業に支障がない限り出来るだけ遅らせ、根や葉の活力を収穫直前まで維持させる（図2）。

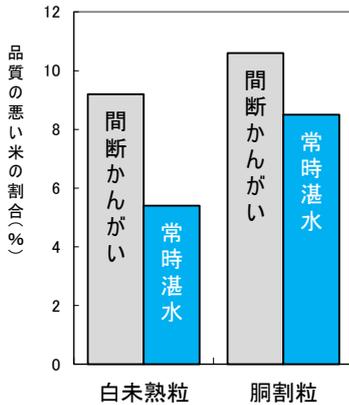


図1 出穂前後の水管理と白未熟粒、胴割粒との関係
(滋賀農技セ 2006年「コシヒカリ」)

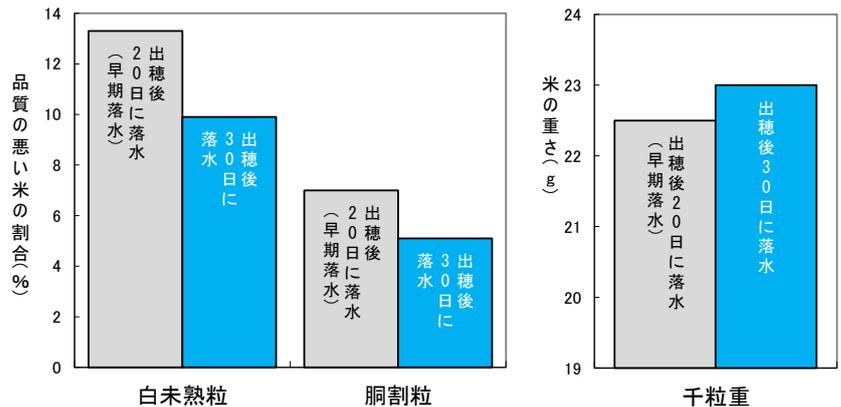


図2 落水時期と白未熟粒、胴割粒、千粒重(米の重さ)の関係
(滋賀農試湖北分場2004年「コシヒカリ」)

出穂前後の常時湛水で
白未熟粒、胴割粒が減ります

収穫直前まで入水すると、白未熟粒、
胴割粒が減り、収量も増加します

(2) 適期収穫

- ほ場内で出穂のばらつきが大きいところは、葉の色が黄化していなくても、籾は先熟している場合があるので、収穫時期が近づいたらほ場に入り、穂（籾）色をしっかりと確認して収穫適期を見極め、刈り遅れないよう注意する。
- 収穫適期は、穂の先端から3～4本目の枝梗につく籾が全て黄化した頃で、籾黄化率85～90%の時期である（目安は、籾黄化率50%程度で収穫7日前）。
- 出穂後の気温が高い年は登熟日数が短くなる傾向にあるので、早生品種（「コシヒカリ」等）だけでなく、中生品種（「秋の詩」等）でも、出穂後30日を過ぎたら収穫できるよう準備を整えておく。

☆過去6年の登熟日数（水稻作況調査データより）

年次 \ 品種名	みずかがみ	コシヒカリ
平成25年～30年	32～34日	32～37日

【適期収穫のポイント】 ★葉色に惑わされず、ほ場に入って穂をしっかり確認する。

収穫適期の目安
 ①穂の先端から3～4本目の枝梗につく籾が全て黄化した頃
 ②籾黄化率85～90%

★収穫7日前の目安：籾黄化率50%程度 ・ ・ ・ 収穫適期判定板を活用

適期収穫で割割粒を減らそう！
収穫適期判定板

使い方

- ほ場全体を見て、平均的な場所に入ります。
- 穂に判定板(裏面)の色がついている部分をあてます。
- 黄化く熟した籾(モミ)の割合を見て収穫時期を判断します。(判定板の色は熟した籾の色目安です。)

※黄色に変わらないうちに、籾の緑色をみて判断してください。

特に8月～9月の気温が高くなった場合は要注意

※近年、出穂後(8月～9月)の気温が高く、黄熟日数が短くなってきています(下の表参照)。
 ※最も短い年は、「コンヒカリ」で30日、「日本晴」で32日、「秋の晩」で34日となりました(平成29年)。

年次	品種名	コシヒカリ	日本晴	秋の晩
平成3年～12年		37日 (34～40日)	41日 (34～48日)	-
平成13年～22年 (最近10年間)		33日 (30～37日)	36日 (32～40日)	39日 (34～44日)

近江米振興協会



【参考サイト】

農業技術振興センター

<https://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/>

病虫害防除所

<https://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>

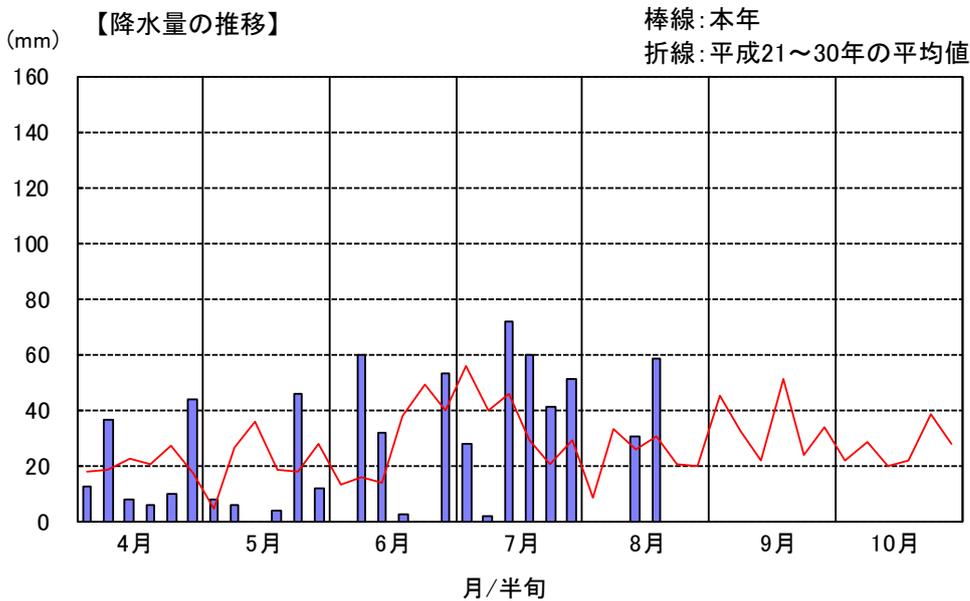
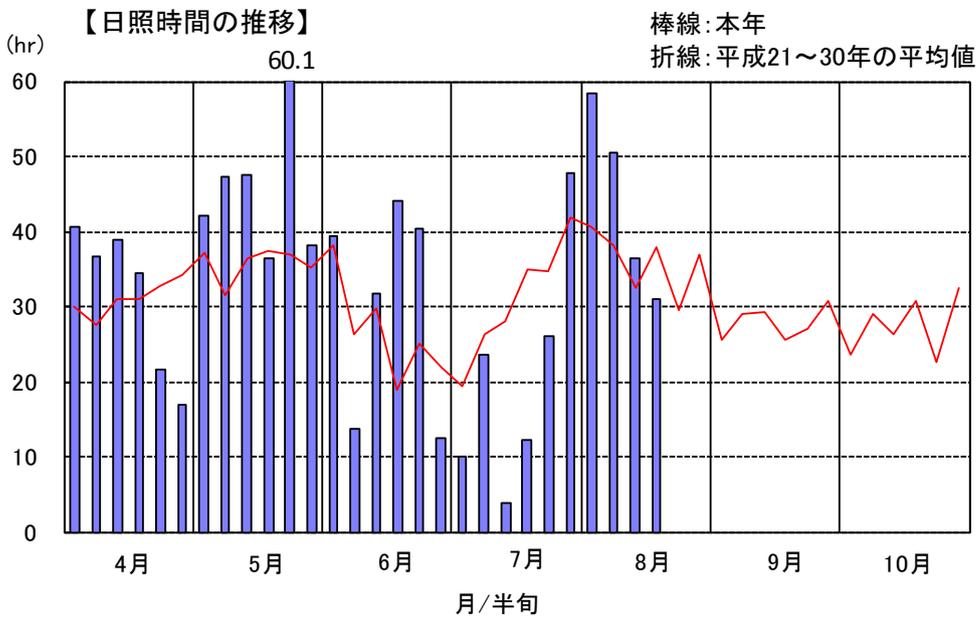
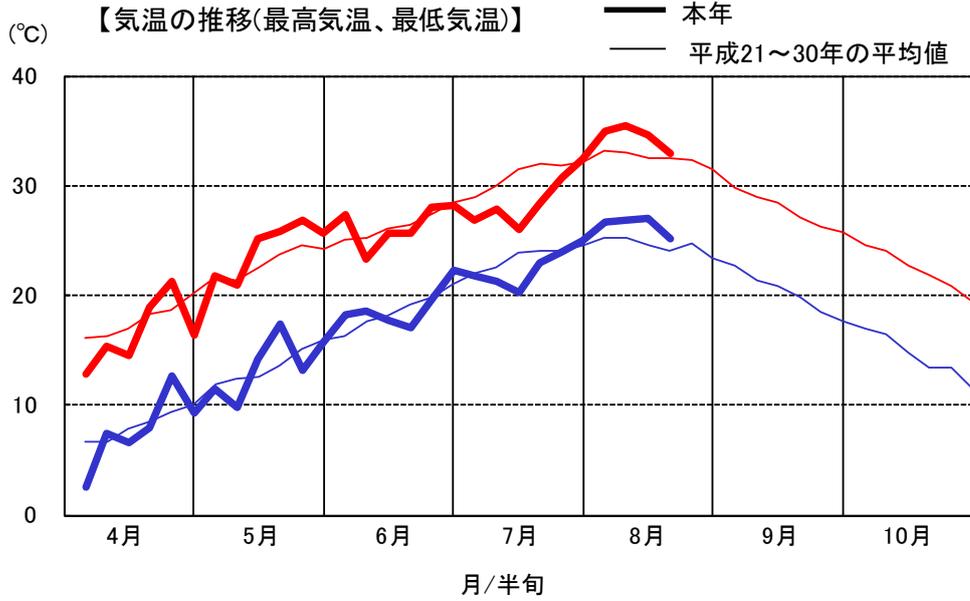
彦根地方气象台

<https://www.jma-net.go.jp/hikone/>

異常天候早期警戒情報

https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/souten/?reg_no=0

令和元年(2019年) 水稲作期間半旬別気象図(彦根气象台観測)



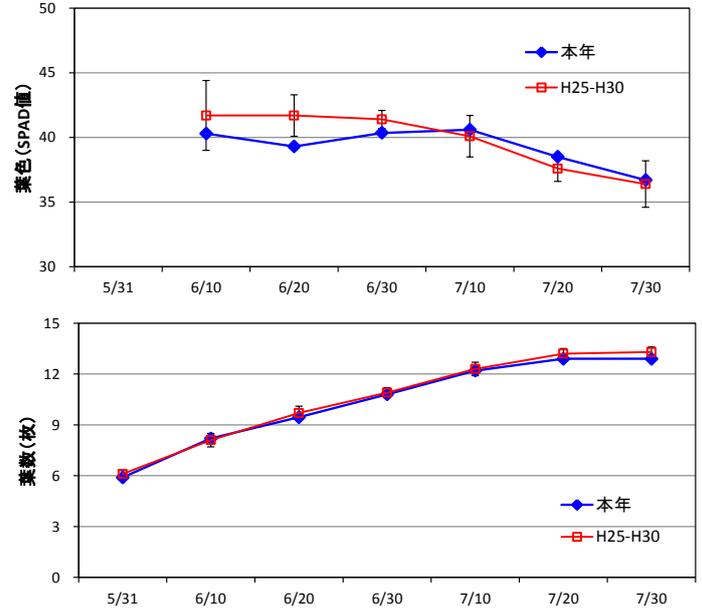
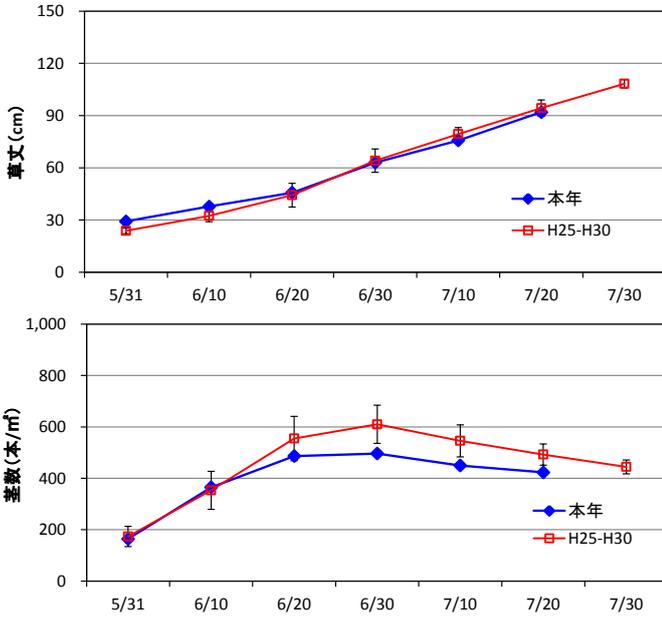
注) 平年は平成21~30年の平均値。 5月,7月,8月,10月の第6半旬の降水量および日照時間は6日間の合計値。

令和元年(2019年) 水稲作況調査 生育調査結果

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

【みずかがみ】

播種: 4月19日、移植: 5月10日、栽植密度: 18.5株/m²、植付本数: 3本/株



【コシヒカリ】

播種: 4月19日、移植: 5月10日、栽植密度: 18.5株/m²、植付本数: 3本/株

